

事務事業評価シート (1/2)

1頁
令和 2年 8月19日
11時27分20秒

評価年度 平成31年度 進捗区分 2次評価
所属 0001231510 子ども発達支援課施設管理係
事務事業 02996 子ども発達支援センター施設管理事業

所属長名 加藤典子
担当者 古居英剛
電話番号 77-7795

【基本情報】

計画回数	02 第8次安城市総合計画			
5Kの分類	005 こども			
項目(施策)	001 17子育て			
施策の方針	006 子ども発達支援センター			
事務事業	007 子ども発達支援センター施設管理事業			
事業期間	平成30年度～			
実施方法	直営			
会計区分	一般会計	事業区分	政策的	性質別費目
健全事業		マニフェスト		地方創生 結婚・出産・子育て
根拠法令等	安城市子ども発達支援センターの設置及び管理に関する条例			
備考				

【事業分析】

対象	施設利用者が
目的	気軽に安心して施設を利用することができるようにします。
手段	施設利用者が快適に過ごすことができるように、施設の適切な管理運営を行います。
事務内容	施設の適正管理、建物・備品等の修繕、図書業務等

【コスト】

(単位：千円)

	平成30年度 決算額	平成31年度 決算額	令和2年度 予算額
トータルコスト	30,590	79,611	58,109
事業費	23,030	68,271	46,769
国庫支出金	0	0	0
県支出金	0	0	0
地方債	0	0	0
その他	0	0	0
一般財源	23,030	68,271	46,769
人件費計	7,560	11,340	11,340
正規(人)	1.20	1.80	1.80
その他経費	0	0	0

	平成30年度	平成31年度	令和2年度
【事務事業活動実績】	子ども発達支援センターの管理・運営(施設の適正管理、設備修繕等)、施設内イベント・会議の企画、視察対応、図書業務	子ども発達支援センターの管理・運営(施設の適正管理、設備修繕等)、施設内イベント・会議の企画、視察対応、図書業務	子ども発達支援センターの管理・運営(施設の適正管理、設備修繕等)、施設内イベント・会議の企画、視察対応、図書業務

事務事業評価シート (2/2)

2頁
令和 2年 8月19日
11時27分20秒

評価年度 平成31年度 進捗区分 2次評価
所属 0001231510 子ども発達支援課施設管理係
事務事業 02996 子ども発達支援センター施設管理事業

上段：目標値 下段：実績値

指標名	単位	平成30年度	平成31年度	令和 2年度
修繕実施件数	件	20.00	20.00	20.00
		9.00	10.00	0.00
施設管理に係るクレーム(意見等含む) 件数	件	10.00	10.00	10.00
		1.00	0.00	0.00

【定性評価】

カテゴリ	評価の観点	基準	ランク
1	必要性 国・県・民間等との補完性	1 国・県・民間等がサービスを行っていない	1
		2 国・県・民間等のサービスは不十分で、市で補完する必要がある	
		3 国・県・民間等が同様のサービスを行っている	
理由	市の施設であり管理を行う必要があります		
2	必要性 市民ニーズの有無	1 市民ニーズは充分にある	1
		2 社会情勢の変化等により市民ニーズは低下している	
		3 市民ニーズはない又は不明である	
理由	市民に安心安全に利用してもらうため施設の適切な管理が必要です		
3	有効性 目標に対する進捗状況	1 目標を上回る又は目標どおりの進捗である	1
		2 目標を下回る進捗状況である	
		3 進捗はかなり遅れている	
理由	支障なく施設の管理を行うことができます		
4	効率性 事業の効率化・事業費の削減	1 事業手法の検討や事務改善に取り組み、具体的な成果を上げている	2
		2 事業手法の検討や事務改善に取り組んでいる	
		3 事業手法の検討や事務改善にあまり取り組めていない	
理由	事業点検の上経費削減を図るなど効率的な運営に努めています		
5	公平性 事業規模・サービス水準	1 環境変化や他自治体等と比較して適正である。	1
		2 環境変化や他自治体等と比較してあまり適正でない。	
		3 環境変化や他自治体等と比較して適正でない。	
理由	施設規模に応じた適切な管理事業を行っています		

【1次評価結果】

事業の方向性	維持・継続
1次コメント (400文字)	開所後2年を経過、活動内容が認知されてきたことに加え、あんステップまつりなど地域住民も取り込んだ催しも行い、発達に心配や遅れのある子どもとその保護者が安心して利用できる施設として認知されるようになってきました。 サルビア学園の旧園舎解体も完了し、今後とも利用者の声を聞きながら市民が安心して集い快適に利用できる場所を目指し施設管理に注力していきます。

【2次評価結果】

事業の方向性	評価未実施
2次コメント (400文字)	本事業においては、2次評価を実施していません。

事務事業評価シート（1/2）

1頁
令和2年8月25日
18時50分37秒

評価年度 平成31年度 進捗区分 1次評価
所属 0001231520 子ども発達支援課相談支援係
事務事業 02997 子ども発達相談支援事業

所属長名 加藤典子
担当者 岡田賀子
電話番号 0566-77-7796

【基本情報】

計画回数	02	第8次安城市総合計画		
5Kの分類	005	こども		
項目（施策）	001	17子育て		
施策の方針	006	子ども発達支援センター		
事務事業	008	子ども発達相談支援事業		
事業期間	平成30年度～			
実施方法	直営			
会計区分	一般会計	事業区分	義務的／政策的	性質別費目
健全事業		マニフェスト		地方創生 結婚・出産・子育て
根拠法令等	母子保健法・児童福祉法・障害者総合支援法・学校保健法・学校教育法			
備考				

【事業分析】

対象	発達に心配や遅れのある18歳までの子ども、その保護者並びに関係する各機関
目的	心身に障害のある子ども又はその疑いのある子ども及び保護者の福祉の増進を図ります。
手段	専門職による面接相談、電話相談、保育園・幼稚園へ出向いての訪問相談、集団指導、保護者支援、グループ支援
事務内容	発達相談、就学相談、訪問相談、障害児（特定）相談支援事業、1歳6か月児健診事後指導会（親子教室）、ペアレント・プログラム教室、ソーシャルスキルトレーニング教室の実施継続

【コスト】

（単位：千円）

	平成30年度 決算額	平成31年度 決算額	令和2年度 予算額
トータルコスト	133,975	139,563	159,637
事業費	52,075	57,663	71,437
国庫支出金	0	1,344	650
県支出金	0	672	325
地方債	0	0	0
その他	18,085	17,425	21,000
一般財源	33,990	38,222	49,462
人件費計	81,900	81,900	88,200
正規（人）	13.00	13.00	14.00
その他経費	0	0	0

	平成30年度	平成31年度	令和2年度
【事務事業活動実績】	発達相談1,464件、就学相談91人、訪問相談102回、障害児（特定）相談支援事業3,705件、1歳6か月事後指導会47回、ペアレント・プログラム9名、SST教室6名	発達相談3,240件、就学相談126人、訪問相談110回、障害児（特定）相談支援事業4,416件、1歳6か月事後指導会43回、ペアレント・プログラム10名、SST教室6名	発達相談、就学相談訪問相談、障害児（特定）相談支援事業、1歳6か月事後指導会、ペアレント・プログラム教室、SST教室

事務事業評価シート (2/2)

2頁
令和 2年 8月25日
18時50分37秒

評価年度 平成31年度 進捗区分 1次評価
所属 0001231520 子ども発達支援課相談支援係
事務事業 02997 子ども発達相談支援事業

【定量評価】

上段：目標値 下段：実績値

指標名	単位	平成30年度	平成31年度	令和 2年度
教室内容の満足度	%	90.00	90.00	90.00
		100.00	88.30	0.00
教室参加後変化ありの割合	%	80.00	80.00	80.00
		83.00	83.00	0.00

【定性評価】

カテゴリ	評価の観点	基準	ランク
1	必要性 国・県・民間等との補完性	1 国・県・民間等がサービスを行っていない	2
		2 国・県・民間等のサービスは不十分で、市で補完する必要がある	
		3 国・県・民間等が同様のサービスを行っている	
理由	継続的に実施していきます。		
2	必要性 市民ニーズの有無	1 市民ニーズは充分にある	1
		2 社会情勢の変化等により市民ニーズは低下している	
		3 市民ニーズはない又は不明である	
理由	市民ニーズは充分にあります。		
3	有効性 目標に対する進捗状況	1 目標を上回る又は目標どおりの進捗である	1
		2 目標を下回る進捗状況である	
		3 進捗はかなり遅れている	
理由	目標に対し、順調に進んでいます。		
4	効率性 事業の効率化・事業費の削減	1 事業手法の検討や事務改善に取り組み、具体的な成果を上げている	2
		2 事業手法の検討や事務改善に取り組んでいる	
		3 事業手法の検討や事務改善にあまり取り組めていない	
理由	事業手法の検討や事務改善に取り組んでいます。		
5	公平性 事業規模・サービス水準	1 環境変化や他自治体等と比較して適正である。	1
		2 環境変化や他自治体等と比較してあまり適正でない。	
		3 環境変化や他自治体等と比較して適正でない。	
理由	環境変化に応じた事業を実施しています。		

【1次評価結果】

事業の方向性	維持・継続
1次コメント (400文字)	発達相談のニーズは高く、相談件数は増加しているため、継続実施の必要があります。保護者支援事業としてペアレント・プログラム教室を実施しました。今年度は職員が講師となり、支援型プログラムを実施し、児童福祉サービス事業所職員他8名が修了しています。児童福祉サービス事業所や関係機関においてペアレント・プログラム教室を実施できる支援者の養成を今後も実施していきます。学齢期支援事業は今年度高学年の親子を対象に実施しました。今後は安城市版SST教室のプログラムをマニュアル化して継続実施していきます。

【2次評価結果】

事業の方向性	評価未実施
2次コメント (400文字)	本事業においては、2次評価を実施していません。

事務事業評価シート（1/2）

1頁
令和 2年 8月25日
18時51分42秒

評価年度 平成31年度 進捗区分 1次評価
所属 0001231530 子ども発達支援課療育係
事務事業 02481 やまびこルーム事業

所属長名 加藤典子
担当者 中根百合子
電話番号 0566-77-7912

【基本情報】

計画回数	02	第8次安城市総合計画			
5Kの分類	005	こども			
項目（施策）	001	17子育て			
施策の方針	006	子ども発達支援センター			
事務事業	003	やまびこルーム事業			
事業期間	平成 3年度 ~				
実施方法	直営				
会計区分	一般会計	事業区分	政策的	性質別費目	
健全事業		マニフェスト	○	地方創生	結婚・出産・子育て
根拠法令等	児童福祉法、知的障害者福祉法				
備考					

【事業分析】

対象	子どもの心身の発達に不安のある親とその子どもが、
目的	適切な援助・指導を受けられます。
手段	子どもの心身の発達に不安のある親とその子どもが、地域の中で安心して生活するための相談や療育支援をします。
事務内容	親子グループ指導（1~3歳程度の乳幼児、0~5歳の未歩行児及び重症心身障害児）、就園後の療育支援、親子行事（クリスマス会、お楽しみ会など）

【コスト】

（単位：千円）

	平成30年度 決算額	平成31年度 決算額	令和 2年度 予算額
トータルコスト	42,290	42,383	51,311
事業費	17,090	17,183	26,111
国庫支出金	0	0	0
県支出金	0	0	0
地方債	0	0	0
その他	0	0	0
一般財源	17,090	17,183	26,111
人件費計	25,200	25,200	25,200
正規（人）	4.00	4.00	4.00
その他経費	0	0	0

	平成30年度	平成31年度	令和 2年度
【事務事業活動実績】	集団療育・親子遊びの 実施回数 672回 専門相談（発達・言語 相談 計208回）	集団療育・親子遊びの 実施回数 679回 専門相談（発達・言語 相談 計99回）	集団療育・親子遊びを 実施します。

事務事業評価シート (2/2)

2頁
令和 2年 8月25日
18時51分42秒

評価年度 平成31年度 進捗区分 1次評価
所属 0001231530 子ども発達支援課療育係
事務事業 02481 やまびこルーム事業

【定量評価】

上段：目標値 下段：実績値

指標名	単位	平成30年度	平成31年度	令和 2年度
療育訓練参加者数	人	200.00 190.00	200.00 190.00	200.00 0.00
療育訓練参加者数／療育訓練希望者数	%	100.00 100.00	100.00 100.00	100.00 0.00
療育内容に対する満足度	%	80.00 100.00	80.00 93.75	80.00 0.00

【定性評価】

カテゴリ	評価の観点	基準	ランク
1	必要性 国・県・民間等との補完性	1 国・県・民間等がサービスを行っていない	1
		2 国・県・民間等のサービスは不十分で、市で補完する必要がある	
		3 国・県・民間等が同様のサービスを行っている	
理由	早期療育が必要なため市で実施しています。		
2	必要性 市民ニーズの有無	1 市民ニーズは充分にある	1
		2 社会情勢の変化等により市民ニーズは低下している	
		3 市民ニーズはない又は不明である	
理由	早期療育が必要な子どもは一定数存在します。		
3	有効性 目標に対する進捗状況	1 目標を上回る又は目標どおりの進捗である	1
		2 目標を下回る進捗状況である	
		3 進捗はかなり遅れている	
理由	療育相談・支援を希望される方は全て応じています。		
4	効率性 事業の効率化・事業費の削減	1 事業手法の検討や事務改善に取り組み、具体的な成果を上げている	2
		2 事業手法の検討や事務改善に取り組んでいる	
		3 事業手法の検討や事務改善にあまり取り組めていない	
理由	参加人数に応じてクラス編成し、効率的に実施しています。		
5	公平性 事業規模・サービス水準	1 環境変化や他自治体等と比較して適正である。	1
		2 環境変化や他自治体等と比較してあまり適正でない。	
		3 環境変化や他自治体等と比較して適正でない。	
理由	必要な療育相談・支援を実施しています。		

【1次評価結果】

事業の方向性	維持・継続
1次コメント (400文字)	発達に何らかの偏りや心配のある子どもが、親子で基本的な生活習慣や社会性の基礎を身につけていけるよう集団療育や親子遊びを行っています。 関係機関と連携し、療育支援を必要とする親子のニーズに合った支援や保護者の就園への不安を軽減するための取組を行います。

【2次評価結果】

事業の方向性	評価未実施
2次コメント (400文字)	本事業においては、2次評価を実施していません。

事務事業評価シート（1/2）

1頁
令和 2年 8月25日
18時52分42秒

評価年度 平成31年度 進捗区分 1次評価
所属 0001231540 子ども発達支援課通所係
事務事業 02480 サルビア学園事業

所属長名 加藤典子
担当者 中谷則子
電話番号 0566-77-7797

【基本情報】

計画回数	02	第8次安城市総合計画			
5Kの分類	005	こども			
項目（施策）	001	17子育て			
施策の方針	006	子ども発達支援センター			
事務事業	002	サルビア学園事業			
事業期間	昭和50年度～				
実施方法	直営				
会計区分	一般会計	事業区分	政策的	性質別費目	
健幸事業		マニフェスト	○	地方創生	結婚・出産・子育て
根拠法令等	児童福祉法、安城市立サルビア学園の設置及び管理に関する条例				
備考					

【事業分析】

対象	知的障害のある幼児の
目的	社会生活への適応能力を養う
手段	【児童発達支援事業】知的障害のある幼児を日々保護者のもとから通園させ、日常生活に必要な基本的事柄を身につけられるよう療育支援します。 【保育所等訪問支援事業】保護者からの依頼により保育所等の施設を訪問し、本人と施設スタッフに必要な専門的助言を行い、児が集団生活に適応できるよう支援します。
事務内容	園児（知的障害等のある概ね3歳から就学前までの幼児）の日々の療育、入園児童の受付・決定事務、遠足・運動会・クリスマス会などの親子行事、保育所等への訪問支援など

【コスト】

（単位：千円）

	平成30年度 決算額	平成31年度 決算額	令和2年度 予算額
トータルコスト	125,643	127,059	131,059
事業費	56,343	51,459	49,159
国庫支出金	0	0	0
県支出金	0	0	0
地方債	0	0	0
その他	56,343	51,459	49,159
一般財源	0	0	0
人件費計	69,300	75,600	81,900
正規（人）	11.00	12.00	13.00
その他経費	0	0	0

	平成30年度	平成31年度	令和2年度
【事務事業活動実績】	4月47人（新入26人） 途中入園 5人 年間実人数 52人 移行・卒園児 18人 保育所等訪問支援 申込2件	4月51人（新入17人） 途中入園 4人 年間実人数 55人 移行・卒園児 21人 保育所等訪問支援 3件	4月56人（新入22人）

事務事業評価シート（2/2）

2頁
令和 2年 8月25日
18時52分42秒

評価年度 平成31年度 進捗区分 1次評価
所属 0001231540 子ども発達支援課通所係
事務事業 02480 サルビア学園事業

【定量評価】

上段：目標値 下段：実績値

指標名	単位	平成30年度	平成31年度	令和 2年度
サルビア学園入所児童数	人	40.00	50.00	50.00
		47.80	51.25	0.00
サルビア学園待機児童数	人	0.00	0.00	0.00
		0.00	0.00	0.00
訪問支援サービス利用契約数	件	0.00	3.00	3.00
		0.00	3.00	0.00

【定性評価】

カテゴリ	評価の観点	基準	ランク
1	必要性 国・県・民間等との補完性	1 国・県・民間等がサービスを行っていない	2
		2 国・県・民間等のサービスは不十分で、市で補完する必要がある	
		3 国・県・民間等が同様のサービスを行っている	
理由	実情に即した適切な支援を実施する必要があります。		
2	必要性 市民ニーズの有無	1 市民ニーズは充分にある	1
		2 社会情勢の変化等により市民ニーズは低下している	
		3 市民ニーズはない又は不明である	
理由	支援が必要な子どもは一定数存在します。		
3	有効性 目標に対する進捗状況	1 目標を上回る又は目標どおりの進捗である	1
		2 目標を下回る進捗状況である	
		3 進捗はかなり遅れている	
理由	支援が必要な子どもを受け入れています。		
4	効率性 事業の効率化・事業費の削減	1 事業手法の検討や事務改善に取り組み、具体的な成果を上げている	2
		2 事業手法の検討や事務改善に取り組んでいる	
		3 事業手法の検討や事務改善にあまり取り組めていない	
理由	事業点検の上経費削減を図るなど効率的な運営に努めています。		
5	公平性 事業規模・サービス水準	1 環境変化や他自治体等と比較して適正である。	1
		2 環境変化や他自治体等と比較してあまり適正でない。	
		3 環境変化や他自治体等と比較して適正でない。	
理由	法令に基づいて実施しています。		

【1次評価結果】

事業の方向性	維持・継続
1次コメント (400文字)	入所を希望する児童の増加に対応するため、定員を超える児童を受入れ支援を行いました。保育所等訪問支援事業は、3件の申込に対し延べ16回の訪問支援を行いました。今後も実践と検証を重ねて円滑な事業運営を継続していきます。

【2次評価結果】

事業の方向性	評価未実施
2次コメント (400文字)	本事業においては、2次評価を実施していません。